

1. 評価結果概要表

作成日 平成 20年 3月 30日

【評価実施概要】

事業所番号	0170504021		
法人名	有限会社 アムケア		
事業所名	グループホームまどべⅡ		
所在地	札幌市豊平区月寒東3条7丁目1-6 (電話) 011-856-5142		
評価機関名	株式会社 社会教育総合研究所		
所在地	札幌市中央区南3条東2丁目1		
訪問調査日	平成20年3月26日	評価確定日	平成20年4月8日

【情報提供票より】 (平成20年2月1日)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 18年3月21日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	18 人	常勤16人, 非常勤2人, 常勤換算15人	

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨 造り	
	3階建ての	2.3階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	36,000円 46,000円	その他の経費(月額)	光熱水費: 20,000円 暖房費(11~3月):15,000円
敷金	有() 円) 無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(100,000円) 無	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	400 円	昼食 400 円
	夕食	400 円	おやつ 150 円
	または1日当たり 円		

(4) 利用者の概要 2月1日現在)

利用者人数	18名	男性 5名	女性 13名
要介護1	4名	要介護2	6名
要介護3	5名	要介護4	2名
要介護5	1名	要支援2	0名
年齢	平均 83歳	最低 71歳	最高 94歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	新札幌聖陵ホスピタル 札幌こぶしクリニック 三上整形外科医院 つかごし歯科 他
---------	---

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

グループホームまどべⅡは、地下鉄二路線の間の静かな住宅街に位置し、交通の便も良く、近隣には数カ所の公園があり環境に恵まれた立地にある。法人の代表者は、以前設立したグループホームが、階段という事で身体状況が重度化してきた利用者にとって、負担が大きくなるという思いから、グループホームで安心して人生の終末を迎えられる介護を目指し、エレベーターを設置した新しいグループホーム「まどべⅡ」を設立した。管理者、職員は「ゆったり寄り添い」という理念のもと、利用者笑顔で寄り添い、ゆったりと温かみのあるケアに日々取り組んでいる。近隣との交流も積極的に行い、地域に密着したグループホームを作り上げる努力をしている。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	今回初めての外部評価のため、取組み、改善項目はない。
重点項目②	今回の自己評価に対する取組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価、外部評価に取り組むことの意義を理解し、職員全員で項目毎に記入に取り組む、管理者が職員の意見をまとめて作成し、全員で確認している。職員は、評価の意義を理解し、日々のケアの具体的な見直しの契機となっている。地域密着の重要性も理解し、積極的に取り組んでいる。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議では、近隣住民や利用者が参加しグループホームの理解を深めて貰うとともに、会議で出された意見をサービスの向上に活かしている。管理者が、平成18年度、豊平区の管理者会議の代表をしているため、行政の担当係長と関わる事も多く、グループホームの実態や考え方を共有し、意見交換をする機会を持っている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	日頃から、家族との関係づくりに全職員で取り組み、苦情や意見を気軽に言える環境作りに配慮している。家族から出された意見や不満は、全職員で話し合い運営に反映させるとともに、家族に結果を書面で報告している。毎月、手作りの個人毎の「まどべ便り」を作成し、家族に郵送している。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	町内会にも入会しており、地域の盆踊りや夏祭りに利用者と一緒に参加したり、ゴミ集積所の片づけなど、積極的に地域との交流を行っている。近くの保育園の運動会や、公民館で開催された地域住民の習い事の発表会を見学に行き、孤立することなく地域との深い交流をめざして努力している。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「ゆったりと寄り添い、慈しみあって暮らしていきたい。自分らしく、誇り高く、いきいきと。」の理念に、「地域の一員として生きいきと」との文章を加え、地域に密着した独自の理念をつくりあげている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は居間や事務所の壁に掲示し、毎月の勉強会の中で議題に取り上げ、「利用者へ寄り添い、利用者の誇り高く生きる」という理念を、日々の利用者との関わりの中で、職員全員が常に実践している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に入会して、地域の盆踊りや夏祭りに利用者と一緒に参加したり、ゴミ集積所の片づけなど、地域と積極的に交流している。近くの保育園の運動会や、公民館で開催された地域住民の習い事の発表会を見学に行き、孤立する事なく、地域との交流に努めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価に取り組むことの意義を理解し、外部評価の時だけに限らず、自己評価に事業所独自で取り組み、サービスの質の向上に努めている。自己評価は、職員全員が、各自項目毎に取り組み、管理者がまとめて、全員で確認している。	○	今後も、ケアの基本に常に立ち返り、質の向上を目指して努力したいという事で、外部評価の時に限らず、定期的に自己評価を実施したい意向なので、取り組みを期待したい。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	近隣住民や利用者が参加し、4ヶ月に1回運営推進会議を開催し、事業所の理解を深めてもらうと共に、会議で出された意見をサービスの向上に活かしている。今回初めての外部評価という事で、結果は次回の運営推進会議で議題に取り上げる予定である。	○	運営推進会議を、2ヶ月に1回の開催に向けて努力する意向なので、取り組みを期待したい。
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	区の連絡者会議に参加して、事業所のクレームの対処方法を相談したりしている。管理者が、豊平区の平成18年度管理者会議の代表をしているため、行政の担当係長と関わる事が多く、事業所の実態や考え方を共有し意見交換する機会を持っている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月、利用者個人の近況報告と、連絡事項を書いた写真入りの「まどべⅡ便り」を作成し、出納帳のコピーや領収書と一緒に家族に郵送している。家族の来訪時には、利用者の状況を話したり、来訪の少ない家族には、文書や電話で状況報告をしている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日頃から家族との信頼関係作りに職員全員で取り組み、苦情や意見を気軽に言えるようにしている。家族から受けた苦情や意見は、日誌に記録し、職員全員で話し合い、運営に反映させると共に、家族に書面で結果報告をしている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員が替わる場合には、一定期間複数で勤務して、引き継ぎを行い、利用者へのダメージを最小限に抑えるよう配慮している。退職や異動する職員は、利用者には挨拶をし、他の職員は、残された利用者の精神的ケアに充分配慮するように心がけている。		


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者や職員を育成するために、内外の研修を受ける機会を積極的に確保している。職員が希望する研修には、積極的に参加出来るようにしている。新人研修には、代表者が直接、3日間の実地研修を行って、新人育成に力を注いでいる。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム管理者会議や、勉強会、研修時に交流し、サービスの質の向上に取り組んでいる。法人内の、「まどべ」や「まどべⅡ」の他のユニットとの職員交流を行って、サービスの質を向上させている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人と家族に見学に来てもらい、利用者と一緒にお茶を飲んだり、紹介しあったりして、事業所での生活を安心して送れるように配慮している。新しく入居した利用者に対しては、職員が寄り添い、他の利用者との仲立ちをして、スムーズに環境に溶け込めるように配慮している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者の得意分野で力を発揮してもらい、職員が教えてもらったり、助けてもらったりする場面をつくり、共に支え合う関係づくりをしている。利用者は、人生の大先輩という考えを職員全員が共有しており、年間行事の細かな事や、料理の味付けなど教えてもらい、感謝の気持ちを伝えている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の利用者とのコミュニケーションから、思いや希望などを把握し、利用者の気持ちにそったケアが出来るように配慮している。日常生活の中で、洋服選びや、テレビ番組の選択など、利用者が決定する場面作りをしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画は、本人・家族からの希望を課題に盛り込み、利用者本位に作成している。「センター方式、24時間アセスメントシート」を使用し、話し合いの中で担当職員が作成した原案を計画作成者とケアマネージャーが確認し、本人・家族に説明し同意を得ている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	利用者が喜びのある暮らしができるように、職員は日々のアセスメントを大切にしている。申し送り時や勉強会で本人の状態を話し合い、また、実施記録の情報なども参考にして、3ヶ月ごとに見直している。本人・家族の希望や状態の変化が生じた時には、関係者と話し合い、新たに作成している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療連携体制では看護職員が医療に必要な対応をし、家族の状況に応じて送迎も行なっている。利用者が他区にあるグループホーム「まどべ」を訪問するなど、法人内でのユニット間の交流が楽しみになっている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主に、協力病院の主治医が月2回、精神科医が月1回の訪問診療を軸に支援をしている。本人・家族が他受診を希望する時には、家族が付添っており、受診時には職員も同行し情報交換や連携を密にしている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時に、重度化に向けた指針を文書で交わし、緊急時に希望する病院先も確認している。過去に、本人の意思で看取りの実例もあったが、その思いに沿い、家族・主治医と話し合いホームでの選択になり、職員が一つになりケアにあたった。職員は看取りのケアをまとめ、外部に事例を報告することで、勉強になったと受け止めている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は利用者の思いや言葉を、しっかり受け止め寄り添うケアを大切にしている。子供扱い、目線、失敗などの対応には注意し「人生を乗り越えてきた高齢者」と、尊敬の念をもって接している。家族とのコミュニケーションの中で必要な情報を提供し、個人情報の取扱いに配慮している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員は利用者と一緒に過ごすように努めている。10時の健康チェック後、やりたいことを確認して、外出、買物など、可能な限り個人のペースに合わせて、職員も楽しみながら支援している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	元気な利用者が多いユニットでは、得意面を活かし、食材購入から食器片付までの作業を率先して職員と一緒にいき、食事中も談笑が絶えない。また、身体能力などの低い人にも簡単な作業がある。職員は共に食事をしながら、食べることに集中できるように話しかけ、見守っている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴日は、日曜日を除き、午後から夕方まで利用者の希望時間に沿って支援している。時には、日帰り温泉で入浴を楽しんでいる。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	職員は選んでもらう場面を作り、一人ひとりの出番を支えている。利用者は食事準備や掃除、洗濯たたみなど、自分の仕事のように能力に応じた作業を手伝っている。ボランティアの訪問では家族や知人も加わり、生け花、大正琴、陶芸、茶道、尺八等やキーボードに合わせて歌う等、多彩な楽しみがある。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	年間を通して、外気に触れる生活が日常的にある。近くにある3つの公園めぐりや毎日の散歩、馴染みになった市場での買物など、自然なかたちで外出を支えている。冬も外に出て、寒い時には、同法人が経営している喫茶店に入り、住民とも交流している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	利用者の思いを尊重し、日中は鍵をかけないで見守っている。物の紛失を訴える利用者には交番まで付添うなど、気掛かりへの解決を日常的に取り組んでいる。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の協力で、救命法、器具の使用法などの講習を受けており、避難訓練は利用者の参加で年1回実施し、職員間での訓練も行なっている。車椅子移動の利用者が数人いるので夜間も含め、住民との協力体制を考えているところである。	○	災害対策について、運営推進会議の議題にのせ、地域住民のホームに対する理解や協力を求めたいとのことなので、住民の協力が得られる体制に期待したい。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個人の記録に食事量や水分量が記載しており、情報の共有で、過不足に対応している。献立は職員が施設長と相談して作っており、栄養バランスに十分な配慮をしているが、年に数回は外部の栄養管理士の専門的なチェックを受ける方向で考えている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関、居間などの造りは、一般家庭のようにしつらえてあり、全体的に明るく、落ち着いた雰囲気である。利用者が描いた芸術的な絵画や職員と一緒に作った、ちぎり絵の小作品等、季節感のある飾りつけである。各ユニットの飾りに違いがあり、利用者の好みが表示されている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室の表札に、職員と一緒に造った好みの小花が飾っており、利用者が描いた自画像のスケッチを入りに貼っている居室も見られた。昔の懐かしいタンスや置物を持ち込み、個性あふれる居室づくりになっている。		

※  は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。